

20032

PCPS 体温管理の工夫

¹三愛病院

早藤 和典¹、澤井 剛¹

【目的】

救命センターなどにおいて CPA や ACS などの救命時に PCPS の挿入を行い、同時に脳低体温療法を施行する施設は多いと聞く。

脳低体温療法は、目標深部体温（直腸温）：33.5～34.0℃、低体温持続時間：72 時間、復温時間：1.0℃/day で行い、低体温期間 3 日間+復温期間 2 日間=約 5 日間、で行うものが、一般的とある。

その際に低体温や復温を管理する機器として、MEDI-THERM や ARCTIC-SUN を使用する施設が一般的であると思う。

今回テルモ社より新しく熱交換器付き PCPS 回路が発売となり、この回路を用いて簡便な体温管理が出来ないかと考え、そのシステムを報告する。

【方法】

当院では人工心肺用冷温水槽は保有しておらず、また現在、脳低体温療法の主流である ARCTIC-SUN も所有していないため、簡便に体温、血液温の温度管理を行うことの出来る装置がなかった。唯一、ゲーマー社製 高・低体温維持装置：MEDI-THERM があるため、これを用いて患者の体温管理を行える様に工夫した。

MEDI-THERM の冷温水をマットに流すためのホースのコネクタ部分を抜き取り、トーレ社製人工透析装置のカプラ部分のみ取り寄せ交換した。

【結論】

人工心肺用冷温水槽では患者血液温の測定は行うことができないが、MEDI-THERM では PCPS 回路の送血温をそのままケーブル入力することができるため、患者体温の管理が容易に行えるのではないかと、また血液温変化の立ち上がりがスムーズなため、今まで低体温療法時に行っていた体表からの冷却に比べ、効率よく設定体温にできることが解った。